

花壇づくりのヒント 12か月

8月 夏の花壇管理

8月に入るといよいよ夏本番！植物もヒトと同じで、夏バテしてくる頃です。夏の植物管理は水切れに注意するのはもちろん、強い日差しや高温多湿を避けることが重要です。今回は、厳しい名古屋の暑さを乗り切るための水やり、遮光、風通し、肥料の与え方などのポイントをご紹介します。

1. 水やり

- ・夏場の水やりは、基本気温が低い**朝早くか夕方**のどちらか 1 回行いましょう。
- ・鉢植えなどで乾きが激しい時は、朝、夕の 2 回水をあげることをおすすめします。
- ・昼間の水やりは、土中の水温が上がりお湯のようになって根を傷める原因になるため避けましょう。
- ・雨がずっと土が乾きにくくなり、根腐れして枯れてしまう植物も出てきます。雨の当たらない場所に避難させるか、レンガなどブロックに乗せて水はけをよくしておきましょう。
- ・マンションなどで花を育てている場合、室外機の風で土が乾燥し、乾く場合があるので、室外機から離して植物を置きましょう。

熱湯注意!!

ホースで水をあげる際はホースの中に水が溜まっており、最初に出てくる水は熱くなっているため注意が必要です。初めに中の水を出し切ってから、水をあげようようにしてください。



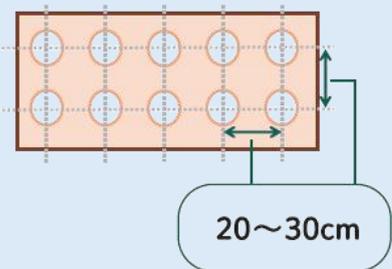
2. 遮光

- ・日差しが強すぎて葉焼けを起こす場合は、遮光ネットや寒冷紗で日よけをしたり、鉢を移動させることができるものは日陰に移動させましょう。よしずやすだれなどで直射日光を遮るのも効果的です。
- ～緑のカーテンの活用～
庭やベランダに『緑のカーテン』を作り、他の植物を守るのもおすすめです。優しい緑の空間と適度な木漏れ日が、素敵な空間を演習します。

3. 風通しの確保

- ・風通しが悪いと蒸れて、病害虫の原因になります。枯れた葉や花がらはすぐに取り除き、株元を清潔に保ちましょう。混み合った枝葉は切り戻して風通しを良くしましょう。
- ※切り戻しの方法については「**6月 切り戻しと挿し芽**」参照ください
- ・切り戻した後は、芽を伸ばすのにかなり体力を使います。そのため、夏の切り戻しは 8 月下旬以降の少し落ち着いてきた頃がおすすめです。

～風通しを確保するには～



夏の花を植える際は、株と株の間隔を十分にあけて植栽し、蒸れを防ぎます。マリーゴールドやペゴニアなど夏の代表的な花は、20~30 cm程度間隔をあげましょう。

4. 肥料

- ・8 月前半、暑さのピーク時期は植物の成長が止まり、花が控えめになる事が多いです。肥料は控えめにし、8 月下旬になったら秋に花を咲かせる準備として適宜追肥しましょう。
- ・切り戻しを行った際に同時に肥料も与えてあげると良いでしょう。
 ※夏の固形肥料は温度で溶けやすくなり、通常より濃い濃度になる場合があります。控えめな量を施しましょう。
 液体肥料は葉にかけると葉焼けの原因になります。薄めのを株元に与え、与え過ぎに注意します。

5. 花選び

- ・夏に強い品種を選ぶことで、管理が楽になります。ただ、夏に強い品種を選んでも名古屋の夏はどうしても花つきが悪くなります。カラーリーフの植物などをうまく活用すると、暑くて花がお休みする時期も色鮮やかな花壇が楽しめます。
 ※名古屋の夏におすすめの花やカラーリーフ植物を「なごや花の環ネットウェブサイト」⇒「知る」⇒「花壇づくりのコツ」ページで「おすすめ夏秋植物」「おすすめ夏のカラーリーフ」として紹介しています。

～夏に強い花～



ヒマワリ



ベゴニア



インパチエンス



ケイトウ

・室内で育てるイメージの強い観葉植物も、夏の花壇や鉢植えでは寒くなるまで外で植えることができます。トロピカルな雰囲気を楽しむのも夏の醍醐味です。

～花壇にもおすすめ観葉植物～



カラジウム



ヒポエステス



グズマニア



ドラセナ・アイチアカ



左は観葉植物クロトンなどを花と合わせた豪華なトロピカルガーデンの例です。

観葉植物は急に日差しの強い屋外に出すと葉が焼けてしまう場合があります。半日陰に植えたり、徐々に日なたに移して日差しに慣らすなどすると安心です。



植物の状態や自分の体調と相談しながら、無理せず進めましょう

★次回9月は『苗の選び方、植え方』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしく申し上げます。